

## 21 . 教

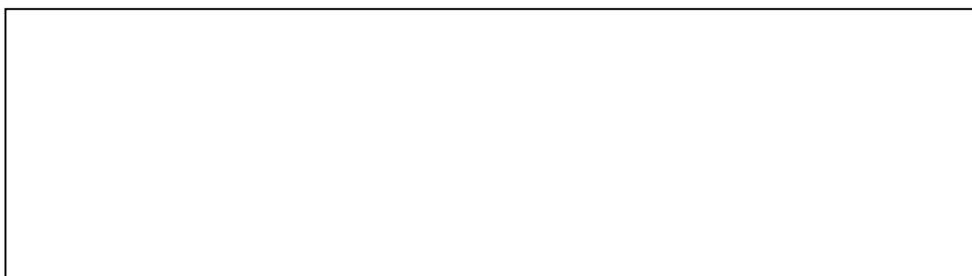
## 教育学研究科の教育目的と特徴

東京大学大学院教育学研究科規則には、教育研究上の目的として、次のように定められている。「本研究科は、人間と教育とのかかわり、社会に

このコース編成が示すように、~~それぞれのコースが~~提供する専門的知識と、コース間の  
~~連携による整合性~~を兼ね備えた教育を提供することで、本研究科では、大学・研究機関を  
はじめとす



このような新コース・専攻の設置に伴い、ややもすれば細分化しすぎた感のある大学院教育の専門分化を緩和するため、組織編成の見直しを行い、平成 21 年度には、総合教育科学専攻を、基礎教育学専修(基礎教育学コース)、教育社会科学専修(比較教育社会学コース、生涯学習基盤経営コース、大学経営・政策コース)、心身発達科学専修(教育心理学コース、臨床心理学コース、身体教育学コース)という、3 専修 7 コースに再編成する予定である。各コースの教員数及び本研究科全体としての現員の推移については資料 21



分析項目 教育内容  
(1) 観点ごとの分析  
観点 教育課程の編成 成

心理療法特論：スーパービジョン	教授	倉光 修
心理療法特論：スーパービジョン	教授	倉光 修
発達臨床心理学特論	教授	田中 千穂子
障害児心理学特論	非常勤講師	本城 秀次
投映法特論	非常勤講師	磯邊 聡
臨床心理学論文指導	教授	亀口 憲治

観点 学生や社会からの要請への対応

(観点に係る状況)

近年の教育研究への期待は、高度化すると同時に複雑化している。こうした新たな社会適用性として、「心」の専門家や、高等教育の専門家、従来以上に高度な専門性を備え将来の学校教育の指導的立場を担うことを期待された学校教員



分析項目  
(1) 観点ごと

観点 授業開

(観点に係る本  
本研究形態は、  
論、心理学  
分析・発表  
っている。

発を行ってき  
た。例えば

属病院精神科  
望を重視しつ

た、心理臨床  
演会の  
談室(企画・

(資料 21-12  
A. 小講演会

2006年度  
心理臨床実践

方法

分析

組合

、実際の

理学コ

の教育相

時により

っている

「臨床心

による小講

理教育相談

から1.「哲学

実  
究遂  
を提

民  
臨床  
を招  
-ス  
び公

画・

学

基本研究、特殊研究の授業  
指定の書籍・文献を題材とした内容の議  
現場等のフィールド調査データの取得・  
育成を目指した演習形式のものが多くな  
め、外部の人材を活用した学習方法の開

生の臨床心理実習先として、東京大学附  
機関や病院と連携して、大学院学生の希  
むことができる機会を提供している。ま  
ミニ講演会+交流会も年に複数回実施し、  
掲載している(資料 21-12: 心理教育相

る小講演会及び公開講座) O

(資料 21 - 13 : 論文指導のシラバス例)

(資料 21 - 14 : 論文指導委員会の設置数の推移)

観点 主体的な学習を促す取組

(観点に係る状況)

各コースは入・進学後の

(資料 21 - 17 : 図書室の充実)

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を大きく上回る。

(判断理由)

本研究科の授業構成は、教育研究の多領域性と実践性、入学してくる学生の背景が教育研究だけに限らなう慎 喙舳喃 芑癱退

分析項目 学業の成果

(1) 観点ごとの分析

観点 学生が身に付けた学力や資質・能

分析項目 進路・就職の状況

(1) 観点ごとの分析

観点 卒業(修了)後の進路の状況

(観点に係る状況)

本研究科の修了生(修士)の進路は、平成 19 年資料によると、博士課程に進学する者が 49%、就職する者が 28% だった。博士課程進学者は、



## 質の向上度の判断

事例1「新コース、新専攻の新設による指導体制の充実」(分析項目 )  
(質の向上があったと判断する取組)

本研究科では、大学院重点化当時の1専攻6コース体制から、臨床心理学コースの新設、大学経営・政策コースの新設、さらには、学校教育高度化専攻の新設により、大きく充実した。これらは、それぞれ従来の教育心理学コース、比較教育社会学コース、学校教育学コースから独立・発展したものであり、これによって、開設科目の種類と教員数が増加し、結果として、学生や社会の多様なニーズに応じたカク蕤靴

